

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第5週（1月31日～2月6日）

## 今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

### 定点把握感染症

「感染性胃腸炎 減少続く」

第5週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は984例であり、前週比26.6%減であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ4.07、0.25、0.22、0.16、0.12である。

感染性胃腸炎は前週比28%減の801例で、南河内7.06、中河内5.30、泉州5.20、北河内4.08、大阪市北部4.07であった。

RSウイルス感染症は32%減の49例で、南河内0.94、大阪市南部0.74、大阪市北部0.43である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は14%減の44例で、中河内・泉州0.55、三島0.38であった。

咽頭結膜熱は33%増の24例で、大阪市北部0.36、泉州0.25、北河内0.19である。

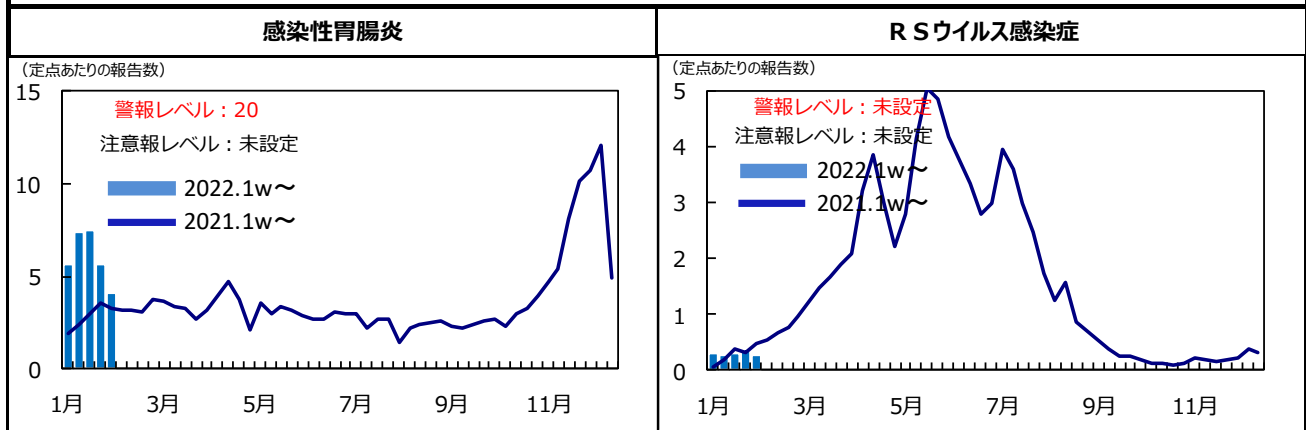


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第5週1月31日～2月6日）

第5週の順位	第4週の順位	感染症	2022年 第5週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第5週の 定点あたり 報告数	2022年第5週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.07	28%減	3.31	1歳_15%
2	2	RSウイルス感染症	0.25	32%減	0.46	1歳未満_27%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.22	14%減	0.49	20歳以上_20%
4	4	突発性発しん	0.16	3%増	0.40	1歳_48%
5	7	咽頭結膜熱	0.12	33%増	0.27	1歳_46%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.02	25%増	0.01	20歳以上(2例)_40%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

## 第5週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

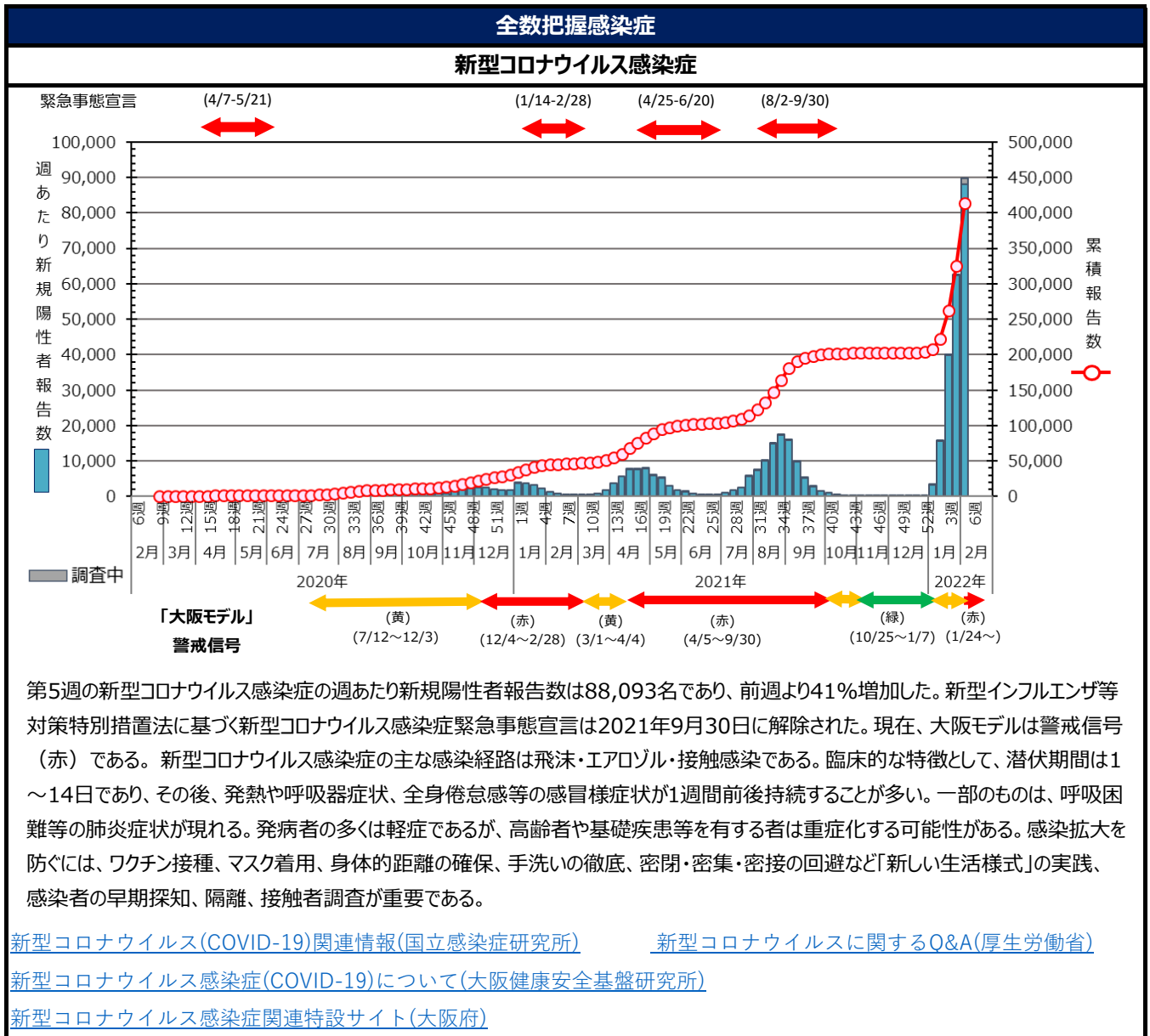


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第5週1月31日～2月6日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

疾患名 ( )内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	2				1			1	10
5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	2							2	9
	梅毒	7	1					1	5	75
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	88,093	2020年1月以降累計 413,207							
結核 (2021年12月分)	結核 新登録患者数：104名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 33名) (府内累積報告数 1,178名、内 肺・喀痰塗抹陽性 449名)									

(2022年2月8日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)